

# 臨床薬理学会海外研修員報告

## (研修経過報告第 2 報)

鈴木豪

Department of Kardiologie und Pneumologie  
Universtätmedizin Göttingen (UMG)

### 1 はじめに

私は 2017 年 9 月からドイツ Göttingen (ゲッティンゲン)にあるゲッティンゲン大学の Kardiologie und Pneumologie , Professor Stephan von Haehling のラボで研修を開始しました。当初はなかなかすすまない手続きや書類などになかなか適応できませんでしたが、渡独して早くも 1 年が経過しました。

### 2 研究内容

昨年の研修生活開始後から、主に自分の仕事はデータ解析や臨床研究のプロトコール作成でした。通常、2 週間に 1 度の頻度でチームミーティングがあるため、昨年自分の研究テーマの希望として発案した甲状腺関連の議論を元に review article の投稿を co-author として行い、2018 年 8 月に publish されました<sup>1)</sup>。次のステップとしては新しい biomaker を加え、当大学を中心に行われた多施設共同研究である SICA-heart failure のデータベースから骨格筋量、筋力と甲状腺機能との関連についての研究で現在プロトコールを作成中です。また基礎実験に関するデータ解析では、当チームが 2016 年に publish している AH-130 cancer cachexia ラットモデルにおける Megestrol acetate の心機能の効果に続く解析を行うことになり、Progesteron の有効性（用量依存性も含め）について現在データ解析を行い投稿に向けて準備をしている段階です。

### 3 ドイツ ゲッチンゲンの生活 1年目

1年が経過し昨年の厳しい冬の寒さ、緑溢れる春そして待ち遠しかったサマータイムなどを一通り経験しました。食事にも単身者なりに慣れた気がします。

ドイツの冬は長く、暗く、曇り雨が延々と続きます。単身のため気分も落ち込みがちになります。毎日 skype など日本との家族と連絡をとることが大変助けになっています。

日常の仕事では主要な必要言語は英語です。プレゼンテーションやディスカッションでは自分の英語力の不足な点もあり日々奮闘していますが1年で慣れてきた実感はあります。日常では多少ドイツ語も理解できた方が良いので、去年は現地のドイツ語コースにも初級 A と中級前半 B1 までは座学も通いました。週末には現地の

日本語を話したい大学生と Tandem speaking partner になってもらっています。若い時期に来ていればもっと上達早いのかなと思うときもありますが楽しんで学んでいます。

### 4 終わりに

1年経ってなんとか co-author の論文の publish までできましたが、未だ first author の paper の publish まで到達できていませんので、今年度は残りの時間を使って

なんとか数本の論文を完成させるまで頑張りたいと思います。

最後になりますが、改めてこのような機会を与えていただきました日本臨床薬理学会海外研修員制度委員会の皆様に感謝申し上げます。

- 1) Sub clinical hypothyroidism and the development of heart failure: an overview of risk and effects on cardiac function. Agata Bielecka-Dabrowa, Breno Godoy, Tsuyoshi Suzuki, Maciej Banach, Stephan von Haehling. Clin Res Cardiol, 08 Aug 2018 [Epub ahead of print].